

そ てんち とく めいあく もの こ たいほんたいそう い てん わ  
 夫れ天地の徳に明白なる者は、此れをこれ大本太宗と謂う。天と和  
 する者なり。天下を均調する所以は、人と和する者なり。人と和  
 する者はこれを人樂と謂い、天と和する者はこれを天樂と謂う。  
 ばんぶつ な ぎ な たく ばんせ およ じん な じょうこ  
 万物を成せども義と為さず、沢は万世に及ぶも仁と為さず。上古  
 に長ぜるも寿と為さず、天地を覆載し衆形を刻彫するも巧と為  
 さずと。此れをこれ天樂と謂う。  
 こ てんがく い

【大体の意味内容】

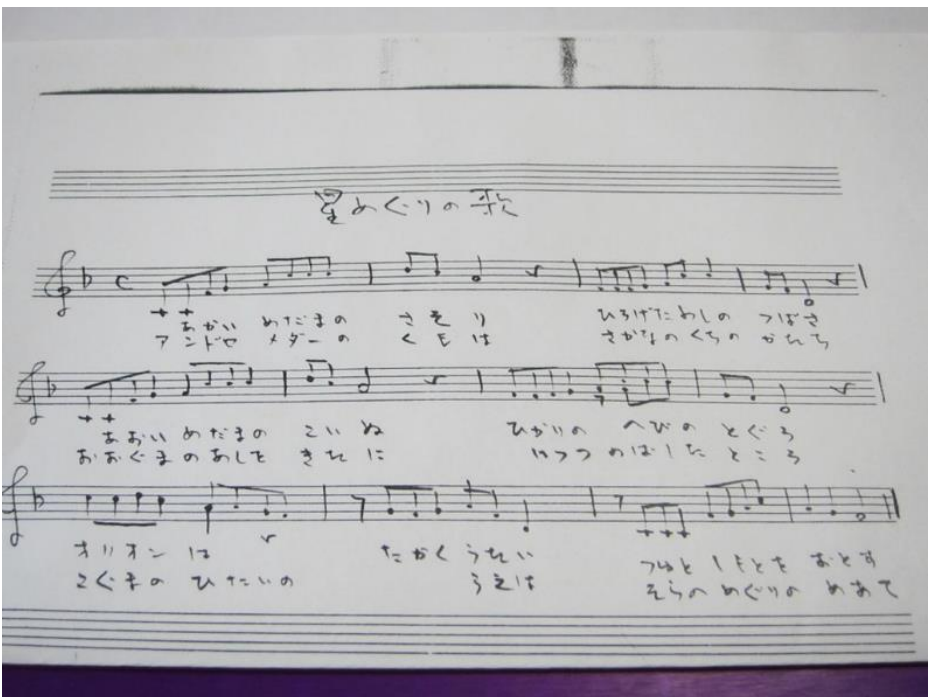
そもそも天地自然の徳、大いなる流動循環を為しながら鏡の湖面の如き静けさを湛える  
 はたらきに達した者は、宇宙の大本にして太宗すなち絶対の核心である。天という、森羅  
 万象の多様性を生かしたまま、調和するものである。天下の乱れを均え、武力によらず  
 調節してゆくための手立ては、多種多様な人々の、その個性を生かしたまま調和させるこ  
 とである。(様々な音の色を殺さずに調和させることを音楽というが、)多士濟々の人々が  
 調和することは、人樂と言えよう。天に無限に存在する星々、その中のありとあらゆるモ  
 ノや生命や靈魂の調和を、天樂と言う。天は、万物を生成させるが、それを以て正義を成  
 し遂げたと誇るわけではない。世を潤す恵沢は千代万代に及ぼうとも、殊更、仁徳を施  
 したとひけらかしはしない。遙かな太古から存在していても、長寿であると主張もしな  
 い。天地全体を覆い尽くし、その間の生きとし生けるものごとくを造形しても、巧匠  
 としての名誉を求めない。このように、あらゆる作為や欲望を排し、宇宙のすべてが調和  
 して奏でるものを、宇宙交響樂、すなわち天樂という。

宇宙の波動を思わせるような荘嚴な曲は色々ありますが、ここでは宮沢賢治作詞作曲の、『星めぐりの歌』(注田中井ゆか)。

### 星めぐりの歌

宮沢賢治作詞作曲

あかこめだまの　くまの  
つんぱだまの　しほれ  
あまこめだまの　こいぬ、  
ひかのくひの　よん。  
オリオンは高く　うたひ  
しほこまじを　おまじ、  
アンドロメダの　くまは  
あかなのくひの　かたが。  
大へまのあしを　きたに  
五つ<sup>甲</sup>のほった　よん。  
小熊のひだいの　うへは  
まゆのめぐりの　めあし。  
(北極星)



夏の星座。なぞり座。赤い目玉はアンタレス。わし座のつばさは、夏の大三角。

冬の星座。こいぬ座。青い目玉はプロキオン。オリオンと、おおいぬこいぬで冬の大三角。

へび座。夏。

オリオン座。冬。

秋の星座。アンドロメダ座大銀河。

春の星座。おおへま座、くま座。空のめぐりの目当てとなる中心は、北極星。

YouTUBEで「星めぐりの歌」と検索すればいろんな歌い手のバージョンが出てきますので是非聞いてみてください。私としては田中裕子のものがおススメ。

春の星座から順番に巡るとい流れにはせず、夏と冬、秋と春という対極にある星座を対句の

様に組み合わせますが、必ずしもバランスよく詩句の形式を整えようとせず、宇宙に星座

された生命たちを淡々と描く。対極の季節が空に刻んだ十字文が、ぐるぐる巡って中心点に北極星をイメージさせる。実際の位置関係にとらわれずそんな宇宙イメージを朗らかに歌った、ある意味「お経」であり、聖歌なのだと思います。